

# 各地で進む “ 秋のとrikumi ”

「東海第二原発の再稼働を許さず 廃炉に」を柱に、右の4点に集中!

県北（伊達・木村） 県南・県西（水野・伊達） 水戸地区（伊達・木村）を訪問し、懇談した結果などをもとに、取り組みの要請数を下表に一覧として掲載しました。



地域	チラシ配布目標数 (昨年度)	平和広告目標数 (昨年数)	県民集会 要請数
北茨城	2000枚 (3400)	30人 (28)	5人
美和・緒川	2500枚 (400)	30人 (23)	10人
日立	1000枚 (同数)	10人 (5)	5人
常陸太田	2000枚 (同数)	40人 (20)	10人
おおみや	1000枚 (同数)	20人 (20)	10人
東海村	10000枚 (2000)	60人 (40)	10人
ひたちなか	3000枚 (5000)	70人 (77)	10人
那珂	500枚 (同数)	30人 (22)	10人
水戸西	3000枚 (同数)	70人 (60)	20人
みとみなみ	100枚 (同数)	・・・ (30)	
花だいこん	200枚 (同数)	20人 (10)	5人
はばたき	100枚 (同数)	20人 (20)	
内原・友部	7000枚 (同数)	60人 (60)	10人
笠西	1000枚 (500)	30人 (14)	10人
鹿行	3000枚 (1000)	60人 (48)	10人
潮来市役所		10人 (10)	5人
池貝	100枚 (同数)	5人 (3)	3人
石岡	6000枚 (8000)	100人 (93)	20人
百里	100枚 (同数)	10人 (5)	3人
土浦	3000枚 (同数)	60人 (56)	10人
阿見	3000枚 (同数)	60人 (63)	10人
筑波研究学園	3000枚 (4000)	10人 (4)	5人
守谷	2000枚 (1500)	30人 (25)	5人
つくばみらい	1000枚 (4000)	30人 (26)	5人
荳崎	1000枚 (500)	20人 (30)	
りゅうがさき	1500枚 (同数)	20人 (10)	
美浦	200枚 (同数)	15人 (15)	
ふじしろ	1000枚 (500)	70人 (68)	5人
取手	2000枚 (同数)	65人 (48)	5人
下館	2000枚 (同数)	60人 (57)	5人
ゆうき	18000枚 (1000)	40人 (39)	5人
さかい	300枚 (同数)	10人 (5)	
古河	2000枚 (同数)	20人 (11)	3人
ごか	100枚 (同数)	10人 (10)	

## 【お願い】

あくまでも目標数です。結果として増加したり、減少したりすることもあります。

・数字は、常任理事会や理事会、またはオルグ、電話等が出された数字です。

・最終的には各地域や会で、幹事会や役員会を開催して決定する数字もありますのでご承知下さい。

各地域や会の力量に応じ、無理のない取り組みを進めることが前提です。

チラシ配布数・県民集会参加予定数のなかには、労働組合や他団体をお願いしている分の記載はありません。

・事務局が直接か、または地域の会と相談しながら、参加要請を進めます。



原発依存から脱却し、再生可能エネルギーに変換すべきだと言う声が全国で起っています。

「東海第二原発は」、関東地方で唯一の原子力発電所です。茨城平和の会では、全国の「脱原発」の取り組みと連帯し連帯し、「東海第二原発の再稼働反対 廃炉に」の取り組みを進めています。全県配布チラシに地域の名称を記載し、会員による各戸配布や新聞折り込み等、経験と力量に応じて取り組みが進んでいます。また地域の労働組合や団体などと連携した運動も進んでいます。結城では、平和の会と結城市職員組合と連名のビラを独自に印刷し、新聞購読の全世帯約18000軒に織り込むなど、頑張っています。また美和・緒川でも全所帯への新聞折り込みをします。鹿行では、昨年まで潮来市のみの配布でしたが、今年度は鹿嶋市・潮来市・神栖市に各1000枚ずつ、3000枚を各戸配布すると同時に、銚田市の仲間にも協力してもらうこととしました。石岡では各戸配布や新聞折り込み、土浦ではさらに駅頭の署名宣伝活動等も行なっています。とりくみの前半が経過し、さまざまな地域でさまざまな形の運動が、元気に取り組みられています。

お忙しいところ ありがとうございます。

1. 「東海第二原発の再稼働は許せません」のチラシを県下で10万枚配布する。
2. 「東海第二原発を廃炉に」の県知事に提出する署名（会員一人あたり20筆目標）
3. 新聞意見広告を1200人（個人）、130団体を超えて集めきる。
4. 県民集会（11/20）「森住卓（もりずみ たかし）講演」を成功させる。



## 文化祭で

「東日本大震災と福島原発事故パネル展」

内原・友部平和の会

秋の文化祭の時期に、10月24日（月）から10月31日（月）の一週間、水戸市内原中央公民館ロビーにて「東日本大震災と福島原発事故パネル展」を開いています。



【講堂前のロビーに展示されたパネル】

## 平和新聞

2011年10月25日(火曜日)

1970号 (毎月5,15,25日発行)

1950年12月16日第三種郵便物許可 発行 日本平和委員会  
1部140円 月額400円 〒105-0014 東京都港区芝1-4-9 平和会館  
(郵送料月額120円) 電話03(3451)6377 FAX03(3451)6277

## 平和かわら版 平和新聞茨城版 No. 608

2011.10/25

発行：茨城県平和委員会 〒310-0912 水戸市見川5-127-281  
Tel/Fax 029-251-2806 E-mail ibahei@amber.plala.or.jp

## 増え続ける汚染水 6月～10月 4割増

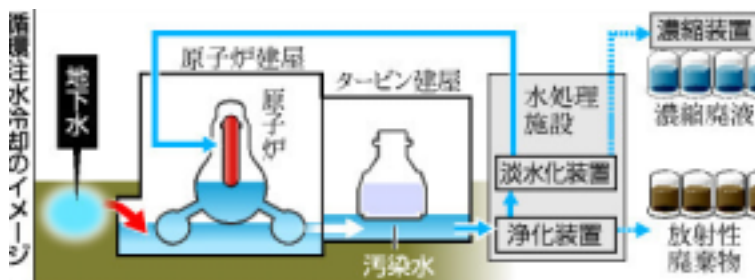
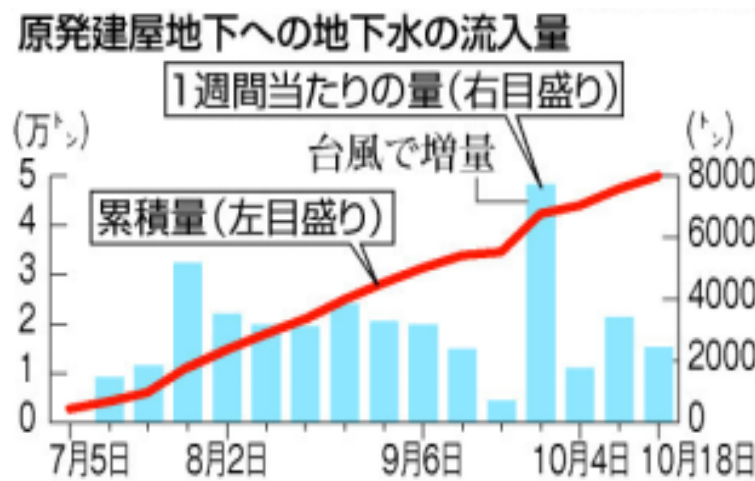
### 福島第一原発

原発事故の復旧を目指す東京電力福島第一原発の原子炉建屋やタービン建屋内に、この4カ月間で計約5万トンの地下水が流れ込み、放射能汚染水が4割増えたことが分かりました。流入はいまも続き、浄化後の汚染水が増え続けて保管場所が不足する恐れがあるほか、水処理施設の不具合と大雨が重なれば、建屋から汚染水があふれる可能性もあります。

東京電力の公表データをもとに朝日新聞が行った試算によると、水処理施設が本格稼働した6月下旬以降、1～4号機の建屋地下には1日あたり約450トンの地下水が流れ込み続けています。建屋の壁などに損傷部があるためとみられます。

流入量は降雨と連動しているということで、台風による大雨後の9月下旬には倍増、1週間で約7700トンの地下水が流れ込んでいました。

#### 【朝日新聞で試算】



## 常総生協が、再稼働差し止めと廃炉求め提訴へ

### 東海第二原発

東海第二原発をめぐる、常総生活協同組合（守谷市）が、日本原子力発電を相手取り、再稼働差し止めと廃炉を求める訴訟を水戸地裁に起こすことが分かりました。11月初めにも提訴する予定で、生協が脱原発訴訟の原告となるのは全国で初めてとみられています。

常総生協は、6月の通常総代会で採択した「核と原子力の廃絶をめざす決議に基づき、訴訟では「原発事故による放射線被害は安心して暮らす人権を侵害する」と主張する方針です。今後、関東や東北の農家や消費者らに幅広く原告団への参加を募るとのことです。大石光伸副理事長は、朝日新聞の取材に対して「消費者は大変な不安を抱えている。彼らを守る立場にある私たちが声を上げないといけないと思う。」と話しています。

## なくせ原発 10.30福島集会

### 各団体で急ピッチでとくみ

福島県の女性団体、NPO、生協、保険医協会、民医連の代表、住職、弁護士、福島大元学長ら多彩な方々が呼び掛けて、「なくせ原発10.30大集会」が福島市・四季の郷で行われます。中央の民主団体がこぞって賛同、実行委員会（事務局 福島県建交労）と連携して急ピッチで準備が進められています。

茨城農民連と茨商連・民商が共同でバスを仕立てました。南から北上しながら参加者を乗せて福島に向かいます。

問い合わせ先：農民連 029-292-8732  
茨商連 029-253-5966

民医連もバスを仕立てて参加します。  
問い合わせ先：民医連 029-228-0600

東海村平和委員会、かさま9条の会などもバスを仕立てて参加します。

## [シリーズ] わが街 わが会員

笠間市 / 稲田 敏之 さん (内原・友部平和の会)



3月11日の東日本大震災とそれに続く福島第一原発事故、水蒸気爆発・制御不能のニュースを聞いた時はゾッとした。「放射能」が襲ってくる、しかも逃げることができない。巨大余震の発生の恐れが重なって、あの時ほど恐ろしい思いをしたことはなかった。それは今も続いている。

そもそも、フクシマのもとを遡ればヒロシマ・ナガサキにつきあたる。アイゼンハワー大統領は1953年「原子力平和利用」を唱えて、原発を西側世界に広げようとした。世界的な反核運動を逸らす道具になると考えたのだ。当然広島は標的になり、被ばくに苦しむ被爆者をほったらかしにして、アメリカは、広島に原発を建設することを画策した。しかし、それがかえって逆効果になることを恐れて撤回されたものの、その後日本では「未完成のアメリカ製原発」の建設が始まる。世界の10%が集中する日本列島に、今54基の原発が立地する。福島第一原発第1号機はその先駆けとなったわけである。

その陰で、アメリカはソ連との核戦争に備えて、実際に使用する目的をもって核兵器開発を急速に進めた。アイゼンハワーは、1953年大統領に就任してから、1961年任期終了までの約8年間に核兵器保有数を約1,000発から22,000発まで増やした。ソ連の核兵器の増産は実はその後から始まる。

原発はアメリカの核兵器開発の「隠れ蓑」として使われた。日本の「原発ゼロ」は、「核兵器廃絶」に繋がるのではないかと思う。

## 福島原発被災者の仮設住宅にちひろカレンダーを贈りましょう!

- \* ちひろカレンダーを被災地の仮設住宅へ福島原水協を通じてお渡しします。
  - \* 料金は、カレンダー1本につき1,000円
  - \* 〆切りは、11月30日です。
- 問い合わせ先：茨城原水協 (Tel/Fax 029-251-9919)